

2021 年度

群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室
学部・附属学校共同研究推進委員会
報 告 書

2022 年（令和 4 年）3 月

目次

I. はじめに	 2
II. 学部・附属学校共同研究推進委員会の構成	 2
III. 2021 年度附属学校園研究会報告	
1. 附属幼稚園研究会	 3
2. 附属小学校研究会	 4～5
3. 附属中学校研究会	 6～8
4. 附属特別支援学校研究会	 9～10
IV. 2021 年度共同研究活動報告	
1. 附属幼稚園	 11
2. 附属小学校	 12～13
3. 附属中学校	 14～15
4. 附属特別支援学校	 16～17

I. はじめに

学部・附属学校共同研究推進委員会委員長 吉田 秀文

本冊子は、令和 3 年度の群馬大学共同教育学部と同附属学校園との共同研究における成果や取り組みについて報告するものである。平成 28 年 12 月 5 日の有識者会議で示された通り、附属学校の「使命・役割」としては、1. 実験的・先導的な学校教育、2. 教育実習の実施、3. 大学・学部における教育に関する研究への協力の 3 点が要請され、今年度も共同して積極的に取り組んできた。また、当該委員会の規約では、第 2 条で「学部・附属学校共同研究推進委員会は、教員養成及び教育実践に関わる組織的な共同研究を推進するとともにその成果を公表し、県内の諸教育機関と連携して教員の資質向上に寄与することを目的とする。」とされ、さらに第 3 条で、「学部・附属学校共同研究推進委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。」として、(1) 共同研究の推進に関すること。(2) 成果の公表に関すること。(3) 教育機関との連携に関すること。(4) その他学部・附属学校共同研究推進委員会の目的を達成するために必要な事項」が掲げられている。

さて、今年度の学部と附属学校の共同研究は大きく 2 点挙げられる。一つ目は、各学校園が毎年実施している公開研究会の成果である。ここでは、群馬県教育委員会をはじめ各市町村の学校教育従事者との協議やご指導を仰ぎながら明らかにされた諸課題に基づき、各学校園の定める研究テーマに依拠して実践的な研究が行われた。学部教員は研究協力者として、研究全体を理論面及び実践面から支援した。また、公開研究会で発刊する研究紀要や学習指導案集などは、学部教員との共同執筆の形を取って群馬県内外に発信され、研究成果の是非を検討し、これは次年度に生かして再考、追究される。二つ目は、学部教員や学生との共同研究である。教育学の研究では、成果は理論と実践の統一があつてこそ強固に結実すると考えられる。学部で編み出された様々な理論的な研究を各学校園での実践を通して検証がなされ、研究としての質が高められる。また、学部教員と連携して研究に臨むことで大きな経験の蓄積となり、附属教員にとって新たな研鑽の場となる。

以上の通り、群馬大学共同教育学部では附属学校園と連携して多くの研究成果を上げてきた。そこでの研究成果が学校教育現場での様々な場面に活用され、役立つことを切に願うところである。当該委員会が、群馬県における学校教育の発展に寄与できるよう、今後も謙虚に且つ継続して取り組む所存である。皆様からの忌憚のないご意見やご指導をいただけると幸いである。

II. 学部・附属学校共同研究推進委員会の構成

委員長	共同教育学部 教授（附属小学校校長）	吉田 秀文
副委員長	共同教育学部附属小学校 副校長	木口 卓哉
委員	共同教育学部附属小学校 主幹教諭	糸井 伸允
	共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田 浩之
	共同教育学部 准教授（教育実践センター）	高橋 智美

Ⅲ. 附属学校園研究会報告

1. 附属幼稚園研究会

公開研究会

○ 日時 令和3年11月6日(土) 9時～11時45分

○ 研究主題：幼児の遊びを豊かにする教育課程の見直し(3年次)

～異年齢の関わりから見えてくるものを手掛かりにして～

○ 研究の概要：平成29年3月に教育要領が改訂されたことに加え、平成30年12月末に新園舎が完成した。園舎や園庭の環境が変わったことで、幼児の遊びの様子に変化が見られるようになってきた。そこで、変化の一つである異年齢の関わりを視点に、異年齢での交流のよさとともに、学年や学級内での幼児同士の関わりによさについて検討し、幼児の遊びを豊かにする教育課程の編成を行う。

○ 保育を語る会：3歳児 前原未明・須田亜希子

4歳児 赤尾香子・齋藤里衣・若松史子

5歳児 岩佐佳子・高麗悠樹・金井理絵



虫ブーム到来です。
「どうやってとったの？」と、
虫をとった友達にインタビューです。



人間ショベルカーだぞ!!!
力を合わせて、砂をいっぱい
バケツに入れるんだ。



滑り台が近くに引っ越してきました。
どんなふうに遊ぼうかな？
友達と考えを出し合っ
て思う存分、遊びます！

3歳児 ————— 4歳児 ————— 5歳児

<指導助言> 永井広子先生 (共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授)	<指導助言> 大島みずき先生 (群馬大学大学院准教授) 山藤こず恵先生 (群馬県教育委員会指導主事) 高橋恵津子先生 (共愛学園前橋国際大学短期大学部 講師)	<指導助言> 横坂好枝先生 (共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授) 都丸千寿子先生 (群馬パース大学福祉専門学校 副校長)
---	--	---

○ 講演会：演題 「遊びが豊かになる～異年齢の関わりから考える～」

講師 上坂元絵里氏

(愛育幼稚園園長・前お茶の水女子大学附属幼稚園副園長)

2. 附属小学校研究会

(1) 公開研究会

○ オンライン授業配信 令和3年6月21日（月）～25日（金）

○ 研究主題：社会に変革を起こす子どもの育成（1年次）

～情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けた カリキュラム
マネジメント～

○ 研究の概要：これからの教育に求められる資質・能力の育成に向け、ICT を活用 した学習指導の工夫等から各教科等の問題解決的な学習の在り方を再考し、授業改善を行う。

授業研究会① 6月25日（金）14：30～15：15 （生活科・総合のみ14：15～15：15）				授業研究会② 6月25日（金）15：30～16：15			
国語科	2年 そうぞうしたことを しょうかいしよう （『スイミー』） 長嶋 愛香	4年 対比のよさを見つけよう （『思いやりのデザイン』『アップとルーズで伝える』） 田島 友香		算数科	2年 100より 大きい 数 中野 紗織	1年 かたちづくり 根岸 徹	
	3年 風とゴムの力の働き 井上 俊介	4年 電流の働き 関口 雄基		社会科	6年 私たちの願いを 実現する政治 樋口 晃	3年 学校のまわり たんけんたい 井出 悠介	
総合・生活科	1年 ゆめの ウォーターランド 狩野 葵	4年 笑いで幸せ運び隊 佐藤 真樹		音楽科	6年 いろいろな音色を 感じ取ろう 『木星（鑑賞）』 稲森 雅明		
図工科	5年 ARフィールド 大塚 裕貴	4年 ひかりの世界 貞永 瞳		家庭科	5年 Everyone feels comfortable！ ～心地よく住もう～ 新井 亮		
道徳科	5年 広い心で 「まかせてみようよ」 衆原 和馬	6年 ルールとマナーのどちら が正しいの？ 「マナーからルールへ、 そしてマナーへ」 内田 圭祐		体育科	2年 ボール投げゲーム 北浦 佑基	1年 鬼遊び 石塚 祐子	
プログラミング	3年 重さの単位 井上 俊介	※プログラミングについては、 授業動画の配信のみにします。		英語活動・ 英語科	6年 We can change the world. ～今、地球のために 私たちにできること～ 原 雄規	3年 Let's make 3-3 ranking! ～好きな物や嫌いな 物の発表をしよう～ 高橋 洋介	

(2) 提案授業

- 研究主題：社会に変革を起こす子どもの育成（1年次）
～『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して～
- 研究の概要：「社会に変革を起こす子ども」の育成を図るために，非認知能力を高める学びのデザインの在り方について，実践を通して明らかにする。

	<国 語 科> 令和3年11月18日(木) 10:30～11:15 第2学年「ようすをくわしくつたえよう『ようすをあらわすことば』」 授業者：長嶋 愛香
	<図画工作科> 令和3年11月18日(木) 13:35～14:20 第5学年「カゼ装置」 授業者：大塚 裕貴
	<英 語 科> 令和3年11月24日(水) 13:35～14:20 第5学年「すごいぞ日本！プレゼンテーション」 授業者：原 雄規
	<理 科> 令和3年11月30日(火) 10:30～11:15 第3学年「電気の通り道」 授業者：井上 俊介
	<音 楽 科> 令和3年11月30日(火) 13:35～14:20 第6学年「詩と音楽の関わりを味わおう」 授業者：稲森 稚明
	<算 数 科> 令和3年12月14日(火) 10:30～11:15 第2学年「かけ算のきまり」 授業者：中野 紗織
	<道 徳 科> 令和3年12月14日(火) 13:35～14:20 第5学年「いじめに負けないために ～スミリー作戦・ガンジー作戦」 授業者：桑原 和馬
	<生 活 科> 令和4年 1月25日(火) 10:30～11:15 第1学年「かぞくの中のぼく・わたし」 授業者：狩野 葵
	<社 会 科> 令和4年 1月25日(火) 13:35～14:20 第6学年「世界の平和と日本の役割」 授業者：樋口 晃
	<体 育 科> 令和4年 1月31日(月) 10:30～11:15 第2学年「ボンパードゲーム」 授業者：北浦 佑基

3. 附属中学校研究会

(1) ICT 活用に関わる研究会

- オンライン授業配信 令和3年6月18日（金）
- 目的
 - ・ICT 利活用の場をを広げるために、県内外の中学校に向けて本校での活用事例を紹介する。
 - ・ICT 機器の利活用に係わり、基本となるルールや留意点を考えるにあたって、参考となるように本校の ICT 機器活用のルールを紹介する。
 - ・1人1台タブレット端末が導入され、各校が実際に抱える悩みや不安を共有し、共に考える場を提供する。
- 内容
 - 第1部 本校における ICT 活用事例の紹介
 - 第2部 疑問、悩み相談会
 - 第3部 質疑応答
- 提案授業

教科	指導者	単元・題材	授 業 内 容
道 徳	千明 隼 (3年)	スイッチ A(1)自主、自律、自由と責任	キャプテンとして、チームの運営に悩む主人公の姿を通して、自らの行動に責任をもとうとする心情を育てます。
学 活	高橋 正人 (1年)	現在の自分を みつめよう	キャリア・パスポートとICTを活用したレーダーチャートを用いて、自分の成長や変容を把握させることで、主体的な学びの実現を図ろうとする態度を育成します。
保健体育	三好 和人 (1年)	バレーボール	「バレーボール」について、参考映像と自分の動きの映像を比較し、課題を発見しながら活動させることでボール操作と定位置に戻るなどの基本的な技能を身に付けます。
数 学	高橋 智之 (1年)	文字と式	ロイロノートやテキストマインドなどのアプリを活用して生徒の意見を集約し、「単元の課題」をたて、統合的・発展的な考え方でできる生徒の育成を目指します。
国 語	下田 俊彦 (3年)	私	ロイロノートのシンキングツールを活用して根拠となる叙述を精選させることで、登場人物の設定や物語の展開の意味を考える力を高めます。
音 楽	星野 勇希 (3年)	歌詞と曲想の関わり を生かして合唱しよう	創意工夫の視点の分担や音楽的な技能の補助に ICT を活用させながら、チームごとに分かれて合唱曲「足跡」の歌唱表現を創意工夫します。

(2) 公開研究会

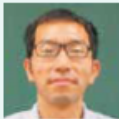
- オンライン授業配信 令和3年10月15日（金）～19日（火）
- 授業研究会 令和3年10月20日（水）～22日（金）
- 研究主題：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成（最終年次）
～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～
- 研究の概要：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、1人1台タブレット端末の活用を「学びの質」を高めるための手立てとし、各教科等における ICT の効果的な活用について提案する。

教 科	主 題		
	単元(等)名	授業PR	指導助言者

■授業研究会① 10月20日（水）

社 会	よりよい社会の実現に向け、多面的・多角的に考察、構想することができる生徒の育成		
	公開授業 日本の諸地域「近畿地方」 授業者：後藤 高行 (2年4組)	環境保全と産業の振興の両立への取組を多面的・多角的に考察する中で気付いた、新たな課題を解決するための取組を考え提案する活動を通して、よりよい社会の実現に向け主体的に社会参画しようとする力を養います。	群馬県教育委員会 指導主事 星野 浩章 群馬大学共同教育学部 教授 関戸 明子
美 術	「造形的なものの見方・考え方」を基に、新たな発想を生み出していく生徒の育成		
	公開授業 世界の仮面と出会う 授業者：多胡 慎平 (1年2組)	世界の仮面に着目し、造形的な視点から、そこに込められた思いや生活との関わりについて考え、新たな発想を表現していく力の育成を目指します。	群馬県教育委員会 指導主事 前島 隆宏 群馬大学共同教育学部 教授 齋江 貴志
学級活動	自分らしい生き方の実現に向けて、学び続けようとする生徒の育成		
	公開授業 30歳になった自分を見つめよう 授業者：高橋 正人 (1年3組)	キャリア・パスポートを教材として活用し、これまでの自己の成長や変容を振り返る場を設定します。また、ICTを活用して、デジタルスタディ・ログとして蓄積された学びを個人で振り返り、共有することを通じてよりよい意思決定を目指します。	群馬県教育委員会 指導主事 坂口 延弘 群馬大学共同教育学部 教授 吉田 浩之

■授業研究会② 10月21日（木）

国 語	確かな読みの技術に基づき、自分の思いや考えを広げたり深めたりする生徒の育成		
	公開授業 夏の葬列 授業者：前原 聡 (2年1組)	構成が時系列でない作品において、場面の展開と本来の時間の順序をロイロノートを活用して比較します。また、表現の効果について考えたことを伝え合うことを通して自分なりの考えをもつことができるようにします。	群馬県教育委員会 指導主事 柴崎 厚志 群馬大学共同教育学部 准教授 河内 昭浩
理 科	自らの学習過程を振り返りながら、科学的に探究し続ける生徒の育成		
	公開授業 水溶液 授業者：柏木 純 (1年1組)	物質が水へ溶解するという現象について、粒子のモデルと関連付けて考える活動を通して、生徒が理科の見方・考え方を働かせることの意義に気づき、見いだした問題について見通しをもって解決する力の育成を目指します。	群馬県教育委員会 指導主事 大河原隆徳 群馬大学共同教育学部 教授 益田 裕充
保健体育	問題解決に向けて運動の取り組み方を工夫して楽しむ生徒の育成		
	公開授業 マット運動 授業者：三好 和人 (1年4組)	ジグソー学習法で協働的な学びを実現し、タブレット端末を活用し、蓄積された映像データから自己の出来映えを実感できる生徒を育成します。	群馬県教育委員会 指導主事 小山 靖弘 群馬大学共同教育学部 准教授 鬼澤 陽子
技 術	よりよい生活や持続可能な社会の実現を目指し、学びを生活や社会とつなぐ生徒の育成		
	公開授業 よりよい生活や社会を創る 双方向性コンテンツ 授業者：茂木 悟 (3年4組)	ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツについて、生活や社会における新たな問題の解決策を構想する活動を通して、技術の見方・考え方を働かせた提言を行い、生活や社会の問題解決に取り組む力を養います。	群馬県教育委員会 指導主事 品川 壽栄 群馬大学共同教育学部 講師 小熊 良一

教 科	主 題		
	単元(等)名	授業PR	指導助言者

■授業研究会③ 10月22日(金)

数 学	数学に関わる事象を統合的・発展的に考察し、数学を深めていく生徒の育成		
	公開授業 相似と比 授業者：関根 直哉 (3年1組)	日常生活の場面を数学化した課題について、生徒一人一人がICTを活用して解決する活動を通して、相似な図形や平行線と線分の比の性質を関連させながら考察し、数学を深めていく生徒の育成を目指します。	群馬県教育委員会 指導主事 浦野 正 群馬大学共同教育学部 准教授 澤田麻衣子
英 語	適切かつ正確な表現でコミュニケーションを図ることができる生徒の育成		
	公開授業 Program 5 The Story of Chocolate 授業者：小野里健太 (3年1組)	A1による文法校正アプリを活用して、自己の表現に含まれる言語面の誤りを認識して文法知識に基づき修正する活動と、修正された表現を用いた言語活動を通して、適切な内容を、より正確に表現しようとする生徒の育成を目指します。	群馬県教育委員会 指導主事 田村 強 群馬大学共同教育学部 名誉教授 上原 景子 講師 山田 敏幸
音 楽	自らの経験を生かして創意工夫し、思いや意図の実現を楽しむ生徒の育成		
	公開授業 歌詞の内容と曲想を生かして 表現を工夫し合わせて歌おう 授業者：星野 勇希 (3年3組)	クラス合唱曲の歌詞の内容や曲想を感じ取り、生徒が見方・考え方を働かせながら協働的に練習することを通して、音楽のふさわしさを吟味しながら創意工夫する力の育成を目指します。	群馬県教育委員会 指導主事 石川 文俊 群馬大学共同教育学部 教授 吉田 秀文
道 徳	道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深め、よりよく生きようとする生徒の育成		
	公開授業 D(22)よりよく生きる喜び 「足袋の季節」 授業者：千明 隼 (3年2組)	タブレット端末を活用して思考の可視化を行い、物事を広い視野で多面的・多角的に考えた上で、対話を深める活動を通して、生徒がよりよく生きる喜びについて、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で生かし、道徳的に判断する力を養います。	群馬県教育委員会 指導主事 前原 稔彦 群馬大学共同教育学部 教授 益田 裕充

実践発表・ワークショップ

教科特性に応じた活用と学校生活を豊かにするICT

実践発表会 10/15～10/19 (YouTube 配信)

ワークショップ 10/20～10/22 (Zoom) ※3日間いつでもご参加ください

タブレット端末を**授業**でいかに活用していくかを、導入期から教科の特性に応じた活用までの実践を提案します。さらに、**生徒の学校生活をより豊かに**するための活用実践やその様子を紹介していきます。



ICT活用委員長 櫻井 康之

講演

GIGAスクール構想で求められる情報活用能力の育成

YouTube 配信 10/15～10/19

信州大学学術研究院教育学系 助教 佐藤 和紀 先生

信州大学 学術研究院 教育学系・助教(教育学部 教育科学グループ)
信州大学教育学部 学校教育教員養成課程 現代教育コース ICT活用教育ユニット
信州大学教育学部 附属次世代型学び研究開発センター
信州大学大学院 教育学研究科 高度教職実践専攻(教職大学院)
信州大学 社会基盤研究所 AI・ロボティクス部門(併任)



4. 附属特別支援学校研究会

(1) 校内研究授業（県内特別支援学校初任者研修提供授業）

- 授業研究会 令和3年6月18日（金）
- 研究主題：学びを生かし、自分らしく社会とかかわる児童生徒の育成（3年次）
～教科の学びと関連付けた「各教科等を合わせた指導」の授業づくり～
- 研究の概要：これまでに取り組んできた教科の実態把握や授業づくりの考え方を生かし、「各教科等を合わせた指導」の目標設定や授業づくりについて、本校としての考え方を実践から明らかにする。

学部	単元名・題材名	教科 (領域)	授業者
小学部	「はこはこばあくて いっしょにあそぼう！」	生活単元学習 (遊びの指導)	林 和泉 小泉龍之介 小倉 彩
	「にゅーすでつたえよう～きいて！3くみにゅーす～」	国語 (聞く・話す)	横堀 莊子 小島 靖弘 小野みやび
中学部	「まちに出かけて見つけよう！～前橋のいいところ～」	生活単元学習	金子 芽衣 山口 哲平 小倉 勲大
高等部	「販売会に向けて製品を作ろう」	作業学習 (縫製班)	草刈 和江 島田 大樹
	「ぴったり目指して計算しよう」	数学 (数と計算)	林 文 関口 紘樹

(2) 公開研究会

- オンライン授業配信 令和3年11月8日（月）～12日（金）
- オンライン研究会 令和3年11月12日（金）
- 研究主題：学びを生かし、自分らしく社会とかかわる児童生徒の育成（3年次）
～教科の学びと関連付けた「各教科等を合わせた指導」の授業づくり～
- 研究の概要：子どもたちの実生活や将来につながる学びの実現に向け、子どもたちがこれまでに学んできた教科の力を生かしながら、実際的な場面をと
おして新たに学んでいくための「各教科等を合わせた指導」の授業づく
りの在り方について、実践をとおして明らかにする。

学部	単元名・題材名	教科 (領域)	授業者
小学部	「かたちをみつけてならべよう」	算数 (図形)	熊田 幸文 上坂美香子 長田 紗綾
	「なげて あてよう いれよう」	体育 (ボール遊び/ボールを使った運動やゲーム)	小泉龍之介 林 和泉 小倉 彩
	「おもちゃランドをつくってあそぼう」	生活単元学習	小島 靖弘 横堀 莊子 小野みやび
中学部	「お気に入りのバッグにしよう」	美術 (デザイン)	山口 哲平 小林 弥生 小倉 勲大
	「きれいな寄せ植えを作って届けよう」	作業学習 (園芸班)	小澤 航太 金子 芽衣
高等部	「読んで見つけよう～宝さがしゲーム～」	国語 (読むこと)	関口 紘樹 矢野 修平
	「広がれ！カラフルーム」	美術 (絵画)	吉田 恵理 島田 大樹 今 泰幸
	「安心・安全・笑顔のカフェを開こう」	作業学習 (喫茶サービス班)	山田 茅穂 島田 大樹

IV. 共同研究活動報告

1. 附属幼稚園

(1) 共同研究一覧

大島みずき：公開研究会を含む保育及び研究についての通年における助言

吉田 秀文：卒業論文「幼稚園における幼児の音楽表現と言語表現の関連についての
一考察－小学校音楽科における言語活動育成に向けての指
針－」（研究支援）

(2) 共同研究例

○ 研究に係る保育実践への指導助言

- ・テーマ：幼児の遊びを豊かにする教育課程の見直し

～異年齢の関わり方見えてくるものを手掛かりにして～

- ・対象：3歳児，4歳児，5歳児
- ・保育実践者：前原 未明，赤尾 香子，齋藤 里衣，岩佐 佳子，高麗 悠樹
- ・期日：令和3年12月20日（月）
- ・概要

互恵性のある異年齢交流を促進する環境や，その際の幼児の体験について検討を行った。

年長・年中保育室の両方からつながっているプレイルームの活用の仕方が工夫され，他学年の遊びの様子や動きを目にし，影響を受けながらも，それぞれが活動する上で危険な交錯はなく，自分たちの遊びを安心して継続できる環境を構成できるようになってきていることが，明らかになった。

2. 附属小学校

(1) 共同研究一覧

教科・対象	附属小教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	長嶋 愛香 田島 友香	濱田 秀行	研究会：社会に変革を起こす子ども（自他やテキストの言葉を基に友達の考えを受け止め、対象と言葉、言葉と言葉との関係についての友達の考えを深める子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
		濱田 秀行	大学院授業実践開発コース 和田江里那 課題研究：「『読むこと』の授業におけるより対話的な学びのための指導の在り方」（研究支援）
		河内 昭浩	授業実践研究：読書感想文の書き方（FD）
社会科	樋口 晃 井出 悠介	齋藤 周 関戸 明子	研究会：社会に変革を起こす子ども（自他の考えや根拠を比較して、見いだした社会的事象の特色、相互の関連、意味、社会への関わり方を伝え、友達の考えや根拠を質的に向上できるよう働きかける子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
算数科	中野 紗織 根岸 徹	澤田麻衣子	研究会：社会に変革を起こす子ども（数量や図形についての課題に対する解決方法を筋道を立てて説明し、簡潔性、明瞭性、一般性をもった解決方法へ導く子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
	系井 伸允	霜田 浩信	群馬大学教育実践研究第39号(255～265頁) 一人一人の特性やニーズに応じた算数科の指導・支援の実践 一育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った、特性による困難さを捉えることを通して一
理科	井上 俊介 関口 雄基	益田 裕充	研究会：社会に変革を起こす子ども（自分の考察の根拠となる観察、実験の結果を伝えて、他者の考察を観察、実験の結果を基にした根拠の確かな考察にできるよう働きかける子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
生活科	狩野 葵 佐藤 真樹	大島みずき	研究会：社会に変革を起こす子ども（自他の関わり方を比べ、他者の関わり方を人・もの・この特徴・よさを基にした関わり方にできる子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
総合	狩野 葵 佐藤 真樹	音山 若穂	研究会：社会に変革を起こす子ども（自他の関わり方を比べ、他者の関わり方を人・もの・この特徴・よさを基にした関わり方にできる子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
音楽科	稲森 稚明 藤井 有美	中里 南子 山崎 法子	研究会：社会に変革を起こす子ども（自らのイメージや音楽表現を基に、音や音楽から聴き取ったことと感じ取ったことを伝え、 ・他者の音楽表現の工夫を高められる子ども＜表現領域＞ ・他者の曲全体の聴き方を深められる子ども＜鑑賞領域＞）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
	稲森 稚明	中里 南子	群馬大学教科教育学研究第21号（11～20頁） 領域「表現」におけるわらべうた遊びの重要性 一子どもの感性を育むための遊びから質の違う遊びへ一
図工科	大塚 裕貴 貞永 瞳	郡司 明子	研究会：社会に変革を起こす子ども（対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、他者の造形活動を更新できる子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
家庭科	新井 亮	田中 麻里	研究会：社会に変革を起こす子ども（自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント
体育科	北浦 佑基 石塚 祐子	鬼澤 陽子	研究会：社会に変革を起こす子ども（運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
		鬼澤 陽子	保健体育専攻 鈴木 亜蘭 課題研究：「小中連携を意識したバスケットボール授業における運動有能感を高める学習指導の検討ー運動有能感と技能成果の関係に着目してー」（研究支援）
		鬼澤 陽子	保健体育専攻 岩崎安里寿 課題研究：「小学校低学年のボール投げ単元における3対2ゲームの学習可能性の検討ーゲーム中の状況判断と教師のフィードバックに着目してー」（研究支援）
道徳科	栗原 和馬 内田 圭祐	山崎 雄介	研究会：社会に変革を起こす子ども（学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して
英語活動 英語科	原 雄規 高橋 洋介	渡部 孝子	研究会：社会に変革を起こす子ども（相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども）の育成 4月～6月：情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント 9月～3月：『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して

(2) 共同研究例

○ 算数科 共同研究授業実践

- ・ テーマ：一人一人の特性やニーズに応じた算数科の指導・支援の実践
～育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った，特性による困難さを捉えることを通して～

- ・ 対象：4年1組
- ・ 授業実践者：糸井 伸允
- ・ 期日：令和3年10月6日（水）
- ・ 概要：

発達障害等の児童が抱える，特性と算数の学習における特性による困難さ，指導の工夫の意図，手立てを，育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って時系列で整理し直し，それらを基に授業を構想し，授業実践を行った。

視覚情報をなるべく用いながら，複数の情報は絞って焦点化することや，話合いの際は，特定の児童のみが発言するのではなく，全員に表現の機会を保障すること，一人一人の学び方に応じた見通しと振り返りの機会を設定することが手立ての有効性として明らかになった。



3. 附属中学校

(1) 共同研究一覧

教科・対象	附属中教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	前原 聡	河内 昭浩	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：確かな読みの技術に基づき、自分の思いや考えを広げたり深めたりする生徒の育成
	下田 俊彦	河内 昭浩	授業実践研究：自分の経験や考えを一般化し、説得力のある意見文を書く 授業実践研究：古典を読み、文章に表れているものの見方・考え方について考える ―修学旅行と『おくのほそ道』―（教材「立石寺」）
社会科	後藤 高行	関戸 明子	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：よりよい社会の実現に向け、多面的・多角的に考察、構想することができる生徒の育成
数学科	関根 直哉	澤田麻衣子	研究会：数学に関わる事象を統一的・発展的に考察し、数学を深めていく生徒の育成 ～数学の学びの系統性を意識した指導の工夫を通して～ 4月～10月：数学に関わる事象を統一的・発展的に考察し、数学を深めていく生徒の育成
	高橋 智之	伊藤 隆	研究論文：群馬大学教育実践研究第39号（11～17頁） 中学校数学におけるピタゴラス数に関する実践授業―原始ピタゴラス数について―
理 科	柏木 純	上原 永次	授業実践研究：キンモクセイの葉を用いた葉脈の観察
		益田 裕充	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：数学に関わる事象を統一的・発展的に考察し、数学を深めていく生徒の育成
		栗原 淳一	卒業論文：メタ認知的活動の促進による科学的な問いを設定する力の育成に関する研究（研究支援）
		栗原 淳一	卒業論文：課題設定場面において見方・考え方を働かせデータを整理し課題を設定する指導に関する研究（研究支援）
	櫻井 康之	栗原 淳一	卒業論文：メタ認知的活動の促進による科学的能力の育成に関する研究に関する研究（研究支援）
	柏木 純 櫻井 康之 斉藤 剛志 関 悟	上原 永次	研究論文：群馬大学教育実践研究第39号（267～274頁） 中学校理科における探求の過程の中で見方・考え方を働かせる授業の実践的研究 ―授業構想シートと理科の見方・考え方カードの活用を通して―
音楽科	星野 勇希	吉田 秀文	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：自らの経験を生かして創意工夫し、思いや意図の実現を楽しむ生徒の育成
美術科	多胡 慎平	齋江 貴志	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：「造形的なものの見方・考え方」を基に、新たな発想を生み出していく生徒の育成
技術科	茂木 悟	小熊 良一	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：よりよい生活や持続可能な社会の実現を目指し、学びを生活や社会とつなぐ生徒の育成
保健体育科	三好 和人	鬼澤 陽子	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：問題解決に向けて運動の取り組み方を工夫して楽しむ生徒の育成
	神田 直子	鬼澤 陽子	卒業論文：学習成果を高めるための体育授業の在り方に関する研究（研究支援）
学級活動	高橋 正人	吉田 浩之	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：自分らしい生き方の実現に向けて、学び続けようとする生徒の育成
道徳科	千明 隼	益田 裕充	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深め、よりよく生きようとする生徒の育成
英語科	小野里健太	上原 景子 山田 敏幸	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：適切かつ正確な表現でコミュニケーションを図ることができる生徒の育成 正確さと流暢さを兼ね備えた、自立的な英語学習者の育成
	小野里健太 柳川祥恵	上原 景子 山田 敏幸	研究論文：群馬大学教育実践研究第39号（95～105頁） 正確さと流暢さを兼ね備えた自立的な英語学習者の育成 ―ことばへの気づきから自己省察力・自己修正力を促進する授業実践―

(2) 共同研究例

○ 国語科 共同研究授業実践

- ・ テーマ：古典を読み，文章に表れているものの見方・考え方について考える
—修学旅行と『おくのほそ道』—（教材「立石寺」）
- ・ 対象：3 学年
- ・ 授業実践者：群馬大学共同教育学部国語教育専攻 准教授 河内昭浩
- ・ 期日：令和3年10月21日（木） 1～4校時（8：40～12：30）
- ・ 概要：

事前学習として，修学旅行で日光を訪れた時の気持ちを授業の前日までにスプレッドシートに記入させ，授業でそれを提示するようにした。

授業の導入では，修学旅行事前学習スライドを改めて見ながら，日光東照宮を訪れた時の芭蕉の気持ちと自分や仲間の気持ちを比較したり，俳句のきまりを確認したりした。

追究する過程では，「立石寺」を音読するとともに，5W1H を把握し「立石寺」の概要を掴むことを行った。生徒に，相手に伝わるように表現するには，文章に5W1Hを置くことが適切であり，優れた文章（古典も含め）はそうようにできていることを伝えることで汎用的な知識として理解することができた。また，文章に表れているものの見方・考え方について考える場面を設定し，「立石寺」に込められた芭蕉の思いについて考える活動を行った。生徒は，『「静かだ」は気持ちなのかな』『寂しい感じがする』などの気付きがあった。

まとめる過程では，修学旅行や中学校の思い出の中から俳句にしたい場面と気持ちを選ばせる活動を行った。その際に，気持ちをストレートに表現し過ぎないように伝えた。



4. 附属特別支援学校

(1) 共同研究一覧

教科等	学部	特別支援学校教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	小学部	横堀 莊子 小島 靖弘 小野みやび	河内 昭浩 霜田 浩信 木村 素子	「にゅーすでつたえよう～きいて！3くみにゅーす～」(聞く・話す) 5月～7月 経験した出来事をニュース風に伝える活動とおして、思いを伝える言葉を知る、語彙を増やすなど、相手がわかるように伝える力を高めることをねらいとした。ICT機器の効果的な活用と、個別最適な学びのための支援について考察した。
	高等部	関口 紘樹 矢野 修平	河内 昭浩	「読んで見つけよう～宝さがしゲーム～」(読むこと) 9月～11月 卒業後の生活場面を見据え、文中の言葉や、言葉と言葉をつなぐ語に着目し、内容を適切に捉える力を身に付けることをねらいとした。ゲーム性のある活動を設定することで、実態差の大きい学習集団でも友だちと共同しながら学ぶ工夫と可能性を考察した。
	小学部	小島 靖弘 濱野 香織	中村 保和	教職大学院報告書：「知的障害特別支援学校における授業実践を『対話』の視点から検討する」(研究支援)
数学科	高等部	林 文 関口 紘樹	澤田麻衣子 金澤 貴之	「ぴったり目指して計算しよう」(数と計算) 5月～7月 日常生活で計算を応用する力を身に付けることをねらいとした。具体物で量感を確かめながら、立式し、解を求める中で、具体物の操作や、友だちと一緒に演算する場面を取り入れることで、主体的に計算したり、計算を活用したりする姿を引き出すための工夫について考察した。
	小学部	熊田 幸文 上坂美香子 長田 紗綾	澤田麻衣子 木村 素子	「かたちをみつけてならべよう」(図形) 9月～11月 身の回りで見付けた形のカードやヘリの数から形の違いを捉えたり、形を分類したりする力を身に付けることをねらいとした。カードにシールを貼ったり、写真を撮ってタブレット端末上でヘリに印を付けたりするなど、具体的な操作を取り入れた活動や支援について考察した。
	小学部	岡田 明子 小島 靖弘 南雲 亮太	木山 慶子	研究論文：群馬大学教育実践研究第39号(275～281頁) 知的障害特別支援学校算数科の授業実践 ーくらべてはかるう(測定)ー
美術科	小学部	山口 哲平 小林 弥生 小倉 勲大	郡司 明子 中村 保和	「お気に入りのバッグにしよう」(デザイン) 9月～11月 表したいイメージを決め、気に入った形や色を選んで表現する力を高めることをねらいに、ステンシルとスタンピング技法を用いてバッグをデザインした。座席配置を工夫したり、プロジェクターを活用したりすることで、様々な色の組合せを自分から試し、多様な表現を引き出すための支援の工夫について考察した。
	高等部	吉田 恵理 島田 大樹 今 泰幸	林 耕史 金澤 貴之	「広がれ！カラフルーム」(絵画) 9月～11月 組合せを何度も変えてできた色を基に、イメージを膨らませたり、表したいものを決めたりしながら制作することをねらいとした。カラフルに彩られていく過程から、他の表現技法を試したり、主体的に表現を楽しんだりする姿を引き出すための工夫について考察した。
体育科	小学部	小泉龍之介 林 和泉 小倉 彩	中雄 勇人 霜田 浩信	「なげて あてよう いれよう」(ボール遊び/ボールを使った運動やゲーム) 9月～11月 ボールを真っ直ぐ投げたり、遠くへ投げたりする力を高めることをねらいに、投げる動きを細分化して、的当てをした。児童にとって馴染みのある絵本をモチーフにすることは、楽しみながら主体的にボール投げをすることにつながるが、その工夫や効果について考察した。
	小学部	橋本 和也 山崎 隆史 岡田 明子	木山 慶子	研究論文：群馬大学教育実践研究第39号(57～64頁) 特別支援学校における「生涯スポーツ」をめざす授業の実践ーバスケットボールの単元に着目してー
				卒業論文：「知的障害特別支援学校の小学部低学年段階における体育授業の実践的検討ー投げる動作への活動設定の検討ー」(研究支援)
生活単元学習	小学部	林 和泉 小泉龍之介 小倉 彩	霜田 浩信 木村 素子	「はこはこばあくて いっしょにあそぼう！」(遊びの指導) 5月～7月 教師や友だちとかわりながら遊ぶことをとおして、自分の好きな遊びを見つけ、要求を自発的に伝えようとしたり、他者と一緒に遊ぶ楽しさを感じたりしながら、遊びの幅を広げることをねらいとした。友だちと遊んだり、場を共有したりするための教師のかかわりや役割、環境の工夫等について考察した。
	中学部	金子 芽衣 山口 哲平 小倉 勲大	中村 保和	「まちに出かけて見つけよう！～前橋のいいところ～」5月～7月 金沢大附特との交流及び共同学習に向けて情報を整理したり、一人一人が伝えたいことをまとめたりすることをねらいに、学校周辺の商店や公共施設を調べたり利用したりした。生活上の課題解決に向けた題材や、生徒にとっての目的設定と具体的な学習活動について検討と考察を行った。
	小学部	小島 靖弘 横堀 莊子 小野みやび	霜田 浩信 木村 素子 林 耕史	「おもちゃランドをつくってあそぼう」9月～11月 言葉や物を介して、新しく出会う人ともやりとりを楽しめるようになることをねらいとした。おもちゃランドを完成させて友だちと遊べるよう、おもちゃの作り方や遊び方を教える講師や一緒におもちゃを作ったり遊んだりする仲間との活動を設定し、主体的に取り組むための仕掛けと効果等を見守る姿から考察した。
作業学習	高等部	草処 和江 島田 大樹	金澤 貴之	「販売会に向けて製品を作ろう」(縫製班) 5月～7月 相手意識をもてるようにアンケートをとったり、そのアンケート用紙を掲示したりしながら、規格通りに作る、丁寧に資材を扱う、工程表に沿って正確に作業する等の課題克服のための工夫について考察した。生徒が目的をもって主体的に作業に取り組む姿を引き出すための授業づくりについて検討した。
	中学部	小澤 航太 金子 芽衣	中村 保和	「きれいな寄せ植えを作って届けよう」(園芸班) 9月～11月 自分たちで出来栄を確かめながら、正確に作業することをねらいとした。依頼者がわかるように、掲示物を工夫したり、リモートで中間評価を受けたりしながら、生徒が明確な目的をもち、主体的に作業に取り組むための授業の仕掛けや工夫について考察した。
	高等部	山田 茅穂 島田 大樹	金澤 貴之	「安心・安全・笑顔のカフェを開こう」(喫茶サービス班) 9月～11月 目的に合わせて自分や友だちの活動を振り返ったり、改善したりすることをねらいとした。「カフェスマイル岩宮店」を再オープンすることを目標に、お客様が安全に過ごせるカフェを目指した。感染症対策について話し合ったり、助言を受けたりしながら課題解決に向かう指導計画や学習活動の工夫について検討した。

(2) 共同研究例

○ 生活単元学習 共同研究授業実践

- ・テーマ：学びを生かし，自分らしく社会とかかわる児童生徒の育成
～「わかった」「できた」を増やし，自分なりの方法で，進んで活動に取り組む児童の姿を引き出すための授業づくり～

- ・対象：小学部3組
- ・授業実践者：小島 靖弘，横堀 莊子，小野みやび
- ・期日：令和3年10月29日（金）
- ・概要：



児童の生活上の課題を解決するために，教科学習における個々の実態から，これまでの学びを踏まえ，集団としての目標や児童一人一人にとっての明確な目的（テーマ）を設けた授業を構想し，実践した。

児童が主体的に活動に取り組みながら学ぶための工夫として，学習する場（シチュエーション）の設定に加え，外部講師と大学生に参画してもらい，児童におもちゃ作りを教えたり，児童と一緒に遊んだりするかかわりを取り入れた。

当初は，大学生や外部講師に近づくだけだった児童も，自分から呼びかけて一緒に遊んだり，おもちゃを作ったりする姿が見られるようになった。こうした姿から，個々の実態を把握し，育てたい姿を想定して課題と学習内容を定めることの大切さが明らかになった。また，主体的な学びを促す状況や環境の工夫に加え，対話的な学びを促すためには，人とかかわりを意図的に組み込むことの有効性についても考察し，生活単元学習の授業づくりの在り方について，明らかにすることができた。

報告書の作成 担当者

共同教育学部 教授（附属小学校校長）	吉田 秀文
共同教育学部 附属小学校 副校長	木口 卓哉
共同教育学部 附属小学校 教頭	糸井 伸允
共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田 浩之
共同教育学部 准教授（教育実践センター）	高橋 智美

2021 年度 群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室

学部・附属学校共同研究推進委員会 報告書

2022 年 3 月

発行 群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室
学部・附属学校共同研究推進委員会
群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地
電話（直通） 027-220-7385（事務局）
ファクシミリ 027-220-7381（事務局）
